

## 第1回信州首都圏総合活動拠点整備推進会議

(日時) 平成25年10月2日(水) 10時から12時まで

(場所) 長野県庁第3応接室

(出席者) 加藤座長、鎌田委員、玉村委員、野原委員、溝畑委員、山口委員  
母袋委員、羽田委員、水本委員、佐々木委員、今井委員、細野委員  
野池観光部長、熊谷信州ブランド推進室長、長谷川東京事務所次長

※ 候補先3か所のビデオを上映

(要旨) …… ○コンセプト関係    ◎立地・物件関係    ●その他

(鎌田委員)

- コンセプトには共感した。これからの地方公共団体の都会での発信の仕方だと思う。
- 今回の計画は「コト」に力点を置いているが、もう少し商売っ気をだして、「モノ」をツールにした「お客様の買う楽しみ」を満たしてあげることも必要ではないか。(物売る面積が少ない。)
- ◎ いずれの物件も素晴らしいものだけをよく見つけた。青山の物件は、かつて経産省が地場産品の事業を展開した場所である。イニシャルコストを考えると、新橋と青山の物件はそのまま施設が使えるのであれば有利

(玉村委員)

- これまで検討会議でいろいろな意見が出された中で、よくまとめることができている。長野県の売りは「信州人のライフスタイル」であり、資料6のコンセプトは良い。
- ◎ 昨年度考えていた銀座2丁目よりは、銀座1丁目の物件の方が良いが、他県のアンテナショップがあるので田舎ストリートに埋没してしまうのでは。おしゃれ感覚なら青山が適地か。
- 拠点では「誰」が、どのようなイベントをするかが課題になる。県職員だけでは実施は無理。

(野原委員)

- 物販ありきではいけないが、「買う楽しみ」と「空間を楽しむこと」を考えることが重要。
- 人材選びが大切。行政だけでは無理。できる人々がチームで取り組むような体制の確立が必要。
- ◎ 信州のステイタスを示すのなら銀座良い。そのため、大通りに面しているか否かでイメージは大きく違う。表通りが石川県でその奥が信州というのは、少々複雑な心境である。

(溝畑委員)

- ◎ 若い世代に聞くと、「新橋ではゆっくり過ごそうなどと思わない。」「青山はおしゃれしていくのに、アンテナショップなんかには行かない。」という意見が大勢を占めている。
- ◎ 銀座はアンテナショップが多いが、競合しているところの方が行く。イニシャルコストも考えねばならないが、他に比べリスクは小さいと思う。他県との競合の中で連携していくのが良い。
- 長野県は「健康長寿」と「安全安心」を前面に出していくのがよい。「健康」をどう出すか。
- 「健康」と「若さ」「美しさ」に対して人は投資するのであり、長野はそれが全て出せる。
- 人は、こういう場所(拠点)に「人に会いに行く」のである。だから、ここにどんな人材が投入できるかが大きなポイントとなる。人材のチョイスが全てを握ると考えても良い。行政の人間がいけないのは、2~3年で人がコロコロ変わる事。ここでは少なくとも10年はやるべき。
- コンセプトは素晴らしい。アンテナショップの歴史を変えるものと思う。

(山口委員)

- コンセプトは素敵。そのためにも「モノ」を選べる「目利き」を置くことが大切。

- イベントに関しては、日常的にしっかりとイベントを動かせる人がポイントと思う。
- シェアハウスは、“ハウス”でいいのか、また、“シェア”にもマイナスなイメージも若干あり、カントリー、リージョン、スタイル、ガーデンのようなワードの方が向いているかもしれない。
- 発信の課題の記載は県の課題を記載しているのであり、民間の課題も掘り下げる必要がある。
- ◎ 長野県を売るなら森のイメージがあり、裏通りを散策することができる青山がよい。

(母袋委員)

- 信州は、少し「あか抜ける」ことが必要であり、発信のレベルアップをしていきたいと思う。
- そのためにも、物販や地域の紹介などもこれまでと違った見せ方ややり方が大事であると思う。
- キッチンと言えば、これまでの女性ばかり。これからは男性もターゲットに幅広く呼び込む。
- 77市町村均等ではなく、まずはやる気のある市町村が参加する形であるべき。
- 長野県出身者や、信州ファンの力をいかに取り込んでいくのか、その手段が必要。
- ◎ 新橋はビジネス街であり適さない。銀座か青山だと思うがやはり銀座が良い。

(羽田委員)

- コンセプトには大変関心したが、しっかりこれに取り組める町村もあれば、できない町村もある。県には、これら町村がこの拠点でしっかり発信できるように導いてほしい。

(水本委員)

- 物販や企業の持つノウハウを活動拠点に誘導していくことが（経営者協会の）役割。
- 中間報告のイメージは良い。従来と違ったもので良いが、「誰がやるか」が一番大きな課題。
- 東京観光情報センターは場所も悪くがっかりした。もう一度行こうとは思わない。
- ◎ 銀座が良いと思うが、場所については一長一短あり、いろいろ言えない。

(佐々木委員)

- 本県から首都圏に行っている学生が帰ってくるようにできないか。学生とのつながりをもっと持てるようにできないか。信州若者1000人会議では、“21世紀は「ずく」を大切にすべきですよ。”と言っているとのことだが、このような学生たちを使うことを考えてほしい。
- ◎ 銀座は後発という感じがする。若者とつながっていくのなら他の場所でも良いかとも思う。

(今井委員)

- 「しあわせ信州」の具現化に向けて、活動拠点のコンセプトは良くできている。
- 物販、キッチン、スクールなどを全部県がやるのか、民間にやらせるのかによって費用も大きく変わってくると思う。この先コスト面も検討を加えていかないと夢だけ追う建物になる。
- ◎ 表参道の物件はなぜテナントが出たかという、あそこは人通りが少ないからである。青山でやるなら、ロコミや事前PRをよほどしないと人は来ないと思う。

(細野委員)

- この計画は是非やらなきゃいけない事業だと思う。
- 商工会は中山間の対策が喫緊の課題であり、この拠点は当会の会員には夢の舞台。ここへ出品するためには県内で販売してみて、そこで選抜されたモノを首都圏で販売する仕組みが必要。

(野池観光部長)

- 「物を買う楽しみ」やその「ストーリー」を一緒に語るなど、「モノ」を扱う意味を共通認識にする必要があると認識した。
- どのような人材をそろえるか、コストがどの程度必要か、市町村の参加ルールなどが必要
- ◎ 物件は一長一短あるので、まずは第一候補を決めて詳細に詰めていく。

(熊谷信州ブランド推進室長)

- リビングなどに目的がないと、ただ単にお越しくささいでは、誰も来ないのではないかと思う。最悪の場合はたまり場になってしまうのではないかということも想定に、詳細を検討すべき。
- キッチン、「美しさと健康」を発信するに最適であり、シニアから子育て世代のお母さん、夜はビジネスマンたちのシェアキッチンなど夢がひろがる。どのような人材を配置するかが重要。
- イベントには勿論、(株)umari や中嶋聞多先生ほか著名人に講義をお願いしたいが、そのオペレーションを誰がやり、どのように(「銀座並木通り地元大学」などの名称)展開・PRするのも今後詳細を詰めると同時に、それは受講生の負担で賄えるのかなど収支も見極めていきたい。
- 物件は県が賃借し、統一感ある内装の実施なども県で実施すべきではないかと検討している。
- ランニング経費については、賃借料や観光案内・移住交流相談などのこれまでも県が負担してきた経費は県が負担し、それ以外の物販やセミナーに係る人件費などの経費は、売上や受講料、使用料などで賄い、自立することができないかを検討している。

(鎌田委員)

- ◎ 「物販」を中心にするのか、「イベント」を中心にするのかで立地が決まると思う。「モノ」なら銀座、「コト」なら感度の高い人が多い表参道かと思う。

(溝畑委員)

- ◎ そもそも「おしゃれ」して「買い物」に行こうと思っている人は、アンテナショップに行こうなどと思わない。だから銀座のアンテナショップたちはチームを作って、「地元に行こう！」とか、「銀ブラじゃなくて、アンブラ」というのはどうだろうか。「アンテナショップの今週の売れ筋ベスト10」などをやってもいいのでは。銀座でアンテナショップの連携を図ることがよい。そして、信州がその中心になれば良い。1店舗を目的にくるのではなく「博覧会」や「百貨店」などのイメージが発揮できる。
- もう一つ注目しているのは県内の「道の駅」。そこに「名物おじいちゃんや名物おばあちゃん」がいるので、アンテナショップでは「名物売り子」としてデビューしてもらおうとよい。ローカルで競争させて、都会で立たせるといふしくみはどうだろうか。
- ①他県との連携による「万博のイメージ」の発揮、②地元の人々のイメージを伝えるためには「道の駅」(直売所も含むか?)の活用を。これらがポイントと思う。

(玉村委員)

- NGB48(ながの爺さん婆さん48)みたいなものも事務局と考えていた。
- 「コト」寄りのコンセプトもよいが、「モノ」も売ってランニングをいくらかでも確保していかないと思う。県民もついて来れるようにしないとと思う。
- 物販は、同じものを売り続けるのではなく、大胆に品揃え入れ替えるなど思い切った物販方法が必要と思う。店内のリビングに使っている椅子やテーブルも全て売れるようにしたら良い。
- ◎ 青山は、雰囲気はいいけど、一般市町村はついて来れないで逃げてしまうと思う。
- ◎ 皆さんのご意見をまとめると、銀座8:青山2で銀座を支持される方のほうが多いと思うので、ここはひとつ銀座に決定することでどうか。
- ◎ 銀座2丁目はいかにもという感じであったが、銀座1丁目の物件の方が奥まっけてコンセプトにも合うし、アンテナショップの真ん中なのでよい。(幸稲荷があることも何かの縁を感じる。)

(野原委員)

- ◎ これまで検討に長い時間をかけてきた。もう皆がしびれを切らしてきている。

(玉村委員)

◎ 早く銀座1丁目の物件を押さえましょう。

(野原委員)

○ 全市町村が横並びではなく、信州のえりすぐりの物をだしていくことが大切。

(母袋委員)

● 個々の市町村を見ると、予算の面ややる気の面に差がある中で、「広域連合」という共同の組織もあるので、この機能などを活用していくことを考えていきたい。

(羽田委員)

○ 県が主導すると公平性を重んじることになるので、運営はどこか母体を作ってセレクトしていく仕組みを考えるのが良いのでは。

(玉村委員)

○ 人材の活用も含め、運営の母体をしっかりと定めることが重要である。

(加藤座長) ※まとめ

① コンセプトについては、いろいろと御意見をいただき、コンセプトについてもおおよそ承認いただいた印象。細かなことはご意見いただきながら固めていきたい。

② 物件については、おおよそ銀座という意見をいただけたかなと思う。推進会議の総意として銀座ということで知事に話をしていきたい。スピード感を持ってということで。

③ 人の問題については、人についても自前で、道の駅を参考にしながら、長野県から行って売り手、情報発信の担い手として、信州人自らがやっていくという意見をいただいた。

今日のご意見を踏まえて実施計画を固めていきたい。